

### 1 自己評価及び第三者評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2870501224		
法人名	社会福祉法人 光朔会		
事業所名	グループホーム オリμπシア兵庫		
所在地	兵庫県神戸市兵庫区小松通5丁目1-14		
自己評価作成日	令和4年2月15日	評価結果市町村受理日	令和4年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/28/">http://www.kaigokensaku.jp/28/</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224		
訪問調査日	令和4年3月4日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「認知症になっても、誇りを持ってこれまでどおりの暮らしを安心して続けていただくお手伝い」を理念に掲げ、利用者ひとりひとりの「その人らしさ」を大切に、パーソンセンタードケアを提供している。家庭的な環境の中で、利用者のこれまでの人生をよく知り、グループの持つ力を活用することにより、残された能力や可能性を最大限に引き出すケアを行っている。また、デイサービス、ショートステイ、ヘルパーステーション、居宅介護支援事業所を併設し、住み慣れた地域で継続的にケアを受けることができる、小規模多機能ホームであることも大きな特徴である。地域に開かれたコミュニティカフェ「Cafe Olympia」を併設し内だけではなく外への出店も行っている。地域住民とともに Salon de l'Olympia(コンサート・落語会等)や「オリμπシア福祉塾講座」を開催するなど、地域との協働も多い。さらに、スウェーデンをはじめとする国内外からの見学・実習の受け入れや、大阪大学大学院などの研究機関と共同研究を実施するなど、認知症ケアの発展にも力を注いでいる。

#### 【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

総合的に福祉事業を展開する社会福祉法人が運営し、多種の居宅サービス事業所と地域に開かれたコミュニティカフェを併設する多機能施設内のグループホームである。施設内の連携を密に地域交流・地域貢献に努めると共に、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう取組んでいる。各種研修・朝礼・カンファレンス等を通して「オリμπシアの理念」「3つの約束」パーソンセンタードケアの共有と理解を深め、PDCAサイクルにもとづいた介護計画に沿って、「今まで通りに誇りを持った暮らしを安心して続ける」ために自立支援・個別支援に取り組んでいる。利用者参加の手作りの食事・おやつ作り、日々のレクリエーション、行事や節句イベント、外出支援等、感染予防策を徹底しながら、利用者の生活の質の低下、心身機能の低下が予防できるよう工夫しながら取り組んでいる。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	オリμπシア兵庫の理念、そして理念の実践のための3つの約束を作成している。この理念を毎日の朝礼で皆で読むことで確認し、内部研修等を通じ、全スタッフで共有と理解をさせて実践をしている。また、新しいスタッフには必ず理念を確認する事からスタートとしている。	「オリμπシアの理念」に地域密着型サービスの意義を明文化している。理念の実践につながる具体的な「3つの約束」と共に各ユニットに掲示し、毎日の朝礼で読み合わせを行い、職員に周知を図り実践に取り組んでいる。朝礼には利用者も参加し、職員と利用者での共有にも努めている。入職時研修・OJT研修で理念の周知と理解を図り、その後の各種研修やユニットカンファレンスでも理念に立ち戻り、継続的に意識付けを行っている。理念をもとに、職員個々の意見を集約して各ユニットの「年間ビジョン」を作成し、実践状況を振り返る機会を設けながら、理念の実践に向け取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年度同様に多くのイベントが中止となり、機会は大きく減ってはいますが、日々のcaféの営業を続ける事での日常的な地域の方々との交流を始め季節の行事などでの交流機会を作り、今できる形での交流継続をおこなっている。	例年は、地域行事への参加、ボランティアや実習生の受け入れ、施設のイベント開催等で、地域交流・地域貢献を積極的に行っている。コロナ禍のため機会は減少しているが、時期や方法を勘案しながら、散歩・買い物・理美容・通院等で、利用者が地域に出かける機会を設けている。節分や収穫祭の行事では、地域の店舗や幼稚園からの来訪があり交流している。日々のカフェの営業での地域の人々との交流、食材等の購入での地域の店舗の利用、地域の認知症相談窓口としての相談対応等、施設・事業所としての地域とのつながりも継続している。	

グループホーム オリンピア兵庫

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域ケア会議や、福祉講座といった大きな発進がコロナ禍は設けることが困難であったが、地域の認知症相談窓口として、電話や相談を受けている他、見学にこられた方々へのアドバイス等を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2021年度も前年に続き、コロナウィルスの影響により運営推進会議の開催が数回となったが、リモートなどの活用により新しい形での開催も行っている。また、開催ができなかった際は報告資料を作成し、ご家族に送付することで定期的な報告を行っている。	例年は、利用者・家族・あんしんすこやかセンター職員・地域代表(民生委員)・知見者(区議会議員・大学教授・行政書士)・管理者・ユニットリーダーを構成委員とし、2ヶ月に1回開催している。開催時には、レジュメ・「月間オリンピア兵庫」・その他資料を配布し、利用者も含め参加者が自己紹介を行い、管理者からの行事報告・各リーダーからのユニット報告・意見交換等を行っている。令和3年度は、4月・6月は書面開催とし全家族を含め構成委員に資料を輸送し、8月以降はリモートを活用し、利用者も参加して会議を開催している。	運営推進会議の議事録をホームページで広く公開する仕組みがあるので、適宜更新されることが望まれます。また、書面会議開催時の資料も、議事録の書式に統一し、返信用紙等で収集した意見や情報も記載されてはどうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	館長が市の研修で講師を務めたり、管理者が認知症サポーターとして市と連携をとっている。2021年度は特にコロナ禍における情報の共有、相談を密に行っている。	運営推進会議を通して、あんしんすこやかセンターと連携がある。館長が市の研修の講師を務め、管理者が認知症サポーターとして活動する等、市と連携している。区のグループホーム連絡会やケアネットへの参加を通して、市や区との連携がある。今年度は特に、新型コロナウイルス関連の情報提供や、相談に対する回答や助言を、事業所での感染予防対策に活かしている。	

グループホーム オリンピア兵庫

自己 者 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の基本的方針として、身体拘束は決して行わないという考えのもと、定期的な身体拘束に関する研修を実施し、職員に広く周知している。また事業所として身体の拘束のみならず気持ちに関しても言葉による拘束を行う事がないよう、全職員への周知を行っている。	「身体拘束適正化指針」を整備し、身体拘束をしないケアを実践している。館長・管理者・各ユニットのリーダーを委員として、3ヶ月に1回「身体拘束防止委員会」を開催している。委員会では、各ユニットの状況報告を行い、その後、「ベッドの4点柵」「スピーチロック」「椅子・車いすによる行動制限」等、テーマ別に身体拘束適正化に向けた研修を行っている。委員会の議事録(研修資料含む)を各ユニットで回覧し、委員会の内容の周知と資料研修を行っている。日々のケアやユニットカンファレンスの中でも、適正化に向けた意識付けを行っている。玄関の施錠は行わず、ユニット間の行き来も自由にでき、ベランダ・テラス・屋上も活用し、閉塞感のない暮らしを支援している。	
7	(6) ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体に対し理事長による高齢者虐待防止に関する研修や、内部研修を定期的に行い、虐待の定義や高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を設けている。また、日々のケアにおいても、不適切なケアに注意し、虐待防止に努めている。	「高齢者虐待防止研修」を各ユニットのカンファレンスの中で実施し、研修報告書を提出している。研修に参加できなかった職員も、資料配布・動画視聴により研修報告書を提出している。日々のケアやユニットカンファレンスの中でも注意喚起し、不適切ケアの未然防止に取り組んでいる。ユニットカンファレンスでケアの課題や業務改善についての検討を行い、日常的にも相談しやすく協力し合える職場環境づくりに努め、職員のストレスや不安がケアに影響しないように取り組んでいる。法人としても、ストレスチェックと相談対応の体制を整備している。	

グループホーム オリμπピア兵庫

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7) ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人で権利擁護に関する制度の理解と活用について研修を行い、職員が学ぶ場を設けている。現在実際に成年後見制度をご利用されている方もいる。また必要と思われる利用者については、相談の上、関係機関への橋渡しができる支援体制を構築している。	例年は、法人研修の中で、行政書士による「権利擁護に関する制度」についての研修を実施している。コロナ禍のため休止しているが、管理者が参加した外部研修の資料回覧により、職員の理解を図っている。現在、成年後見制度を活用している利用者があり、後見人への報告や面会時の対応等、制度の活用のための支援を行っている。行政書士に相談できる体制があり、今後も制度利用の必要性や家族からの相談があれば、管理者が窓口となり行政書士や関係機関と連携し支援する仕組みがある。	年間研修計画をもとに、法人内・施設内・事業所内で、テーマ別・階層別など様々な研修が実施されているため、研修実施一覧表の作成や研修ファイルの整備等、実施状況が明確になる工夫が望まれます。
9	(8) ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結の際は十分に理解、納得頂ける様説明を行っている。リモートでの見学等、入居前からの相談も密にさせて頂く事でご本人、ご家族にとって安心した形でご入居頂ける様努めている。	入居希望があれば、リモートでの見学やガラス越しの見学など方法を工夫して対応し、パンフレットをもとに、生活環境やサービス内容についてわかりやすい事前説明に努めている。契約時には、管理者が運営規定・重要事項説明書・契約書・指針・同意書等の内容説明を行い、書面で同意を得ている。医療や重度化対応等については、特に詳細に説明し、利用者・家族の不安の軽減に努めている。契約内容の改定時は、改定内容を説明した書面を作成し、文書で同意を得ている。	

グループホーム オリμπピア兵庫

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	この2年、コロナ禍によりご家族懇談会が開催できず、直接の交流の機会も減っている中、オンラインでのリモート面会の活用している。また、定期的にご連絡をし、電話にて要望相談を伺い、情報共有し、ケアに反映している。	利用者の意見・要望は、日々の会話の中で聴き取り、ケース記録やユニットカンファレンスで共有し、趣味の継続や食事等、生活の中で実現できるよう取り組んでいる。コロナ禍のため、家族懇談会・クリスマス会等のイベントは休止となり、日常的な面会の機会も減っているが、リモート面会を活用したり、時期を勘案し面会の機会を設ける等、工夫している。家族の来訪時や電話連絡時に近況を報告し、また、写真を多数掲載した「月間オリμπピア兵庫」を郵送して生活の様子等を伝え、家族の意見や要望の把握に取り組んでいる。把握した内容は「相談シート」や申し送りノートで共有しケアや生活支援に反映している。また、運営推進会議に複数名の利用者・家族の参加があり、意見・要望を外部者に表せる機会を設けている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフの様子に気を配り、その時々で個々のスタッフに対し、必要に応じた声掛けを行っている。スタッフの悩みや、疑問にいち早く気が付き、不満をためず納得したケアを行えるよう配慮している。定期的にスタッフとの面談を行い、意見や要望等を確認の機会を設け迅速な返答を心かけている。	ユニットカンファレンスを月1回開催し、職員の意見・提案を、利用者のケア・行事・業務等に反映できるよう取り組んでいる。事前に利用者毎の担当者が利用者の状況や介護計画の実施状況等をシートにまとめて報告し、効率的に進行できるよう工夫している。議事録をユニット職員に回覧し周知を図っている。日々の検討事項は、ユニットリーダーが集約し、申し送りノートで共有しながら、ケアの変更や業務改善につなげている。物品購入など内容に応じて、管理者が報告を受け対応している。定期的には年1回、ユニットリーダー・管理者・館長が職員と面談し、個別に意見を伝える機会を設けている。随時にも、管理者が意見・提案を聴き対応している。	

グループホーム オリンピア兵庫

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を導入し、年度初めに職員個々が毎年目標を設定し、何度末に自己評価および上司による評価を実施することによって、向上心をもって働ける環境を整備している。スタッフのその時々々の要望等を確認し、反映に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内、外部の研修にスタッフが参加したり、外部講師を招いての研修を行っている。介護未経験のスタッフから、リーダー以上を対象とした研修まで幅広く実施し、スタッフのスキルアップに努めている。また、オリンピア兵庫で初任者研修も開講し、働きながらの受講にも支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍でもオンラインを活用し交流を継続している。同区内でのグループホーム連絡会やケアネットへの参加、法人内の部門交流により、サービスの質の向上に取り組んでいる。今年度よりSNSなどでの情報の交換も主流になり発進している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接時から安心して頂けるような会話、不安軽減の為の聞き取りを心掛けています。ご本人が安心した形で生活をスタートできるよう環境作りに努めています。また、個別に日々のご本人の行動、言葉を大切に受け止めケアに反映している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前からご家族の不安や要望を伺い、把握しサービス導入段階で安心し、納得した状態でサービスを開始して頂ける様努めています。また、導入初期はご本人のご様子をご家族にお伝えし、安心、信頼に繋がるよう支援している。		

グループホーム オリンピア兵庫

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの希望を頂いた段階で面談の機会をもうけご家族と、ご本人の状況の把握に努めている。直接的な要望だけでなく、会話の中から隠れた希望や望みを読み取るようにし、必要とされている支援と一緒に検討し、選択をして頂いている。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	オリンピアでは職員と入居者様は「介護する側、される側」の関係ではなく、共に生活をするもの同士として個々を尊重させて頂いています。敬語を使った接し方は基本として、人生の先輩方に成長をさせて頂いている。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人にとってご家族とのつながりを大切に、ご家族とは定期的にご連絡をさせて頂いたり、気軽に要望を行って頂き、ご本人のケアに対して共に結論付けていくことで、ご本人を共に支えていくための関係を築いている。		
20	(11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で直接会っての交流は難しくなったが、オンライン面会の仕組みの構築によって、遠方の知人との交流などが可能となり、これまで以上に、幅広く交流を行われている面もある。	馴染みの人や場所についての情報を、入居時は家族記入の「生活歴シート」等から把握し、入居後は日々の会話等の中で把握に努め、個別の「情報ノート」に記録し共有を図っている。例年は、家族・友人・知人の来訪が多く、馴染みの場所への外出も支援している。施設内の行事や交流で、馴染みの人との関係継続も行われている。コロナ禍のため、面会・交流・外出の機会は減っているが、時期や方法を勘案しての面会、リモート面会の活用等を工夫し、また、時期に応じて、買い物・理美容・通院等を行う等、可能な範囲で馴染みの関係継続の支援に努めている。施設内で連携してショートステイ利用の家族と食事の機会を設けたり、リモートを活用することで遠方の家族との面会機会を増やす等の取り組みも行っている。電話・年賀状・手紙での関係継続の支援も継続して行っている。	



グループホーム オリμπピア兵庫

自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者個々の性格を活かした生活を送って頂いている。生活の中でご利用者同士の声の掛け合いや、共同作業なども自然とされている。孤立しする方のないよう、スタッフも一緒に寄り添い生活をしている。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人のご逝去後もご家族がイベントやCaféのご利用に来られたり、定期的に便りを頂けるご家族もいる。オリμπピアのサポーターズクラブに入って頂いている方もおり、交流を継続し関係を守っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	(12) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の意向を大切にお一つおひとつ確認を行い希望や要望を確認し、ケアに反映している。意思表示の困難な方に対してもご本人の表情やしぐさを大切な意思と受け取り、過去の生活歴等、ご家族からの情報を得て把握に努め本人本位に検討をしている。	利用者個々の思いや暮らし方の希望について、入居時は家族記入の「生活歴シート」等から把握している。入居後は、日々の会話や行動などから把握に努め、個別の「情報シート」・ケース記録・ユニットカンファレンス等で共有し、日々の生活支援や介護計画に反映できるよう取り組んでいる。把握が困難な利用者については、生活歴を参考にしたり、表情や反応から汲み取ったり、家族の意見や情報を活用する等、利用者が希望する暮らしを支援できるよう取り組んでいる。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活の延長として生活をして頂ける様ご本人、ご家族から情報を得、個々の生活歴の把握に努めている。服装やこれまでの生活環境、利用サービスについても、把握に努めている。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々変化するご利用者の状況を、スタッフがご利用者との関わりを密にとる事で把握に努めている。また、様々な角度から情報が得られるよう、定期的なカンファレンスにてスタッフ間での情報の抽出、確認を行っている。		

グループホーム オリμπピア兵庫

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(13)		<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>ご本人の意向、ご家族の希望を中心にしてプランを作成している。関係者からの意見は勿論、関わるスタッフ個々からも本人視点での意見を出し、毎月のカンファレンスにて、モニタリング、アセスメントを実施しプランに反映している。</p>	<p>入居前のサービス事業者からの情報提供、家族記入の「生活歴シート」、面談記録等をもとに初回の「介護計画」を作成している。ユニットカンファレンスで個々の介護計画内容を説明して職員周知し、日々のサービス実施状況はiPadの「介護記録」「チェック表」に介護計画と連動した記録を残している。毎月のユニットカンファレンスでは、開催前に利用者担当の職員が介護計画に沿って支援状況・課題を書面にまとめ、カンファレンスの中で共有・検討を行っている。必要時には随時、定期的には短期目標に合わせて3ヶ月毎に、介護計画の見直しを行っている。見直しの際は、計画内容に沿ったモニタリング表で項目ごとの評価を明確にし、再アセスメントで身体機能状況を確認した上で、家族や医療関係者の意見を反映したカンファレンスで現状に即した介護計画を作成している。</p>	
27			<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の個別記録ではご利用者様の“今”に目を向け、会話や、行動、ご本人の言葉を中心に記録を付けている。タブレットによる記録をしている事で、多数の記録、職員間で共有しやすくなった。</p>		
28			<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>利用者ひとりひとりの状況やニーズに応じた、柔軟なサービス提供に取り組んでいる。オリμπピア兵庫として、デイサービス・ショートステイ・ホームヘルプとを組み合わせ、小規模多機能ケアに取り組む臨機応変に相談を受けている。</p>		
29			<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>コロナ禍であっても近隣には日常的に出かけ、買い物や、美容院、病院などを利用し地域との関わりを持って頂いている。イベント開催時には参加をしている。</p>		

グループホーム オリンピア兵庫

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		(14)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>ご本人の希望に合わせ、かかりつけ医を決定している。もともとのかかりつけ医の継続、オリンピア兵庫としても3名のかかりつけ医がいる為、ご本人、ご家族の納得した形で医師を選択頂いている。ご利用者にとって安心した形で必要な医療の継続をして頂いている。</p>	<p>契約時に利用者・家族に今後の意向を確認し、希望に沿った受診を支援している。今までのかかりつけ医を希望する場合は往診対応の可否を確認し、現在はほぼ往診で対応している。事業所の協力医療機関の3名のかかりつけ医から選択して往診が受けられる体制があり、日頃の健康管理は施設の常勤看護師が行い、医師と連携を図っている。通院を要する時は職員が同行し、日頃の状況を医療機関に伝え、適切な医療が受けられるよう支援している。医師への相談・報告事項や医師の所見・助言は「往診記録」「通院記録」に受診記録として残し、職員に回覧して共有している。</p>	
31			<p>○看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>施設内に看護師が常駐しており、ご利用者の日々の小さな変化から看護師とは相談をし、情報の共有をしている。ご利用者の医療面での早期対応、看取りや入院者の早期退院の受け入れに繋がっている。コロナ禍での相談も多く、多岐にわたり助言を受けている。</p>	/	
32		(15)	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時には情報提供を行い、病院に繋げるように努めている。入院中も病院との情報共有、状態把握をし早期の退院に繋がる様に行っている。また、可能な限り病院と家族とのカンファレンスにも出させて頂く事で関係づくりに努めている。</p>	<p>入院時は事業所独自の「サマリーシート」で情報提供している。面会が困難な現状では、主に電話で医療関係者と連絡を密にして情報交換を行い、早期退院に向け支援している。入院中に把握した情報は「申し送りノート」に記録として残し、職員共有している。退院前カンファレンス実施時は参加して情報収集を行い、看護師と課題を共有している。退院時には「看護サマリー」の提供を受け、かかりつけ医・看護師と情報共有して助言を受け、必要時は介護計画を見直し、退院後の適切な支援に取り組んでいる。</p>	

グループホーム オリンピア兵庫

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約の段階から重度化に関しての指針について説明をし確認を取っている。ご本人に変化が見られた際は勿論のこと、定期的延命などの確認を行い、初期からの希望の変化を確認している。ご本人の希望を第一に医師、ご本人、ご家族、管理者、スタッフでのカンファレンスの場を設けるなどチームとして看取りに取り組んでいる。	契約時、「重度化した場合における対応に係る指針」に沿って事業所の方針を利用者・家族に説明し、同意を得ている。体調変化が見られた時は、日頃からユニットリーダーが迅速に家族に報告し連携を図っている。重度化が予想される段階で管理者が家族に状況報告し、重度化を迎えた段階で主治医を交えてカンファレンスを実施し、現状の共有と家族の意向確認を行っている。看取りが予想された場合は、事業所でカンファレンスを実施し、主治医・家族・管理者・ユニットリーダーが参加して家族の意向を確認している。家族に看取り介護の意向があれば、看取りに向けた介護計画を作成し、きめ細かい介護記録で情報共有し、医療関係者と連携をとりながら支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応として定期的に内部研修を開催し、日ごろから看護師による指導を行っている。また医師、看護師と連携をとり緊急時の連絡経路が整っており、経験の浅いスタッフから、ベテランスタッフまで対応が出来る仕組みを作っている。			
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	設備会社、消防署、電気会社と協力し定期的な訓練を実施している。コロナ禍で救急隊や役所とも相談し、受け入れ等の対応も進んでいる。災害発生時の受け入れ先としても地域と協力体制が取れている。	年2回、2月・8月に施設合同で消火・通報・避難誘導の総合訓練を利用者も参加して実施し、1回は事業所の訓練として夜間の避難誘導訓練も行っている。定期的に消防署・設備業者等の参加協力で具体的な助言や指導を得ている。訓練後は議事録を作成し、訓練内容・評価を職員に回覧周知している。施設合同で非常食料・備品を施設の厨房に保管し、管理栄養士が備蓄担当者として管理している。非常災害時の受け入れ施設として、地域との協力体制を築いている。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	オリμπピア兵庫では「ご利用者の尊厳」を理念として掲げている。パーソンセンタードケアの考えのもとご利用者主体の関わりを意識し、ご利用者の言葉や気持ちを尊重し、スタッフ自身の思いを押し付ける事のないようにしている。	理念と「3つの約束」の中に、利用者尊重・パーソンセンタードケア・敬語での言葉遣い等を明示し、理事長による入職時研修を初めとする各種研修で学ぶ機会を設けている。毎朝の朝礼で理念と「3つの約束」の読み合わせを行い、ユニットカンファレンスでケアや支援について振り返る際は理念に立ち戻り、共有と実践に取り組んでいる。ホームページ・「月刊オリμπピア」・館内掲示への写真・映像使用については、入居時に利用者・家族に説明し、同意を得ている。個人ファイルは鍵付き書庫に保管して適切に管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「生活の主人公は利用者ご本人」の理念のもと、ご利用者への声かけは押しつけの言葉ではなく、選択肢のある問いかけをさせて頂くことで自己決定を促させて頂いている。また、意思表示の難しいご利用者に関してもご家族の協力のもとご本人本位のケアを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な生活の基盤の中に、「生活の主人公は利用者ご本人です」というオリμπピア兵庫の理念のもと、パーソンセンタードケアの実践を行っている。施設側の時間の流れではなく、ご利用者のペースでの時間の流れで1日を過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみに関しては、ご自身で好きな衣類を選ばれ、お気に入りの化粧品の購入や、行きつけの美容室への継続した支援を行っている。ご自身で出来なくなった方や普段されなくなった方に対しても、外出時等に服を一緒に選んだり、髪を整えたりといったこれまでの習慣を守って頂けるよう支援させていただいている。		

グループホーム オリμπピア兵庫

自己 者	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニュー作りから、ご利用者を巻き込み嗜好物や季節の食材の料理、また調理を楽しめるもの等を反映している。ご利用者一人ひとりにあった食事形態にも対応し、安全に楽しく食事が出来る環境を作っている。	献立は、各ユニットの職員が季節、行事・節句、利用者の意向を反映し、施設の管理栄養士の確認・助言を受けて作成している。地域の商店に発注し届けられる食材を使い、リビングに併設されたキッチンで手作した食事を提供している。手作りおやつを楽しむ機会も設けている。個々の状況に応じた食事形態に対応し、安全に食事が楽しめるよう支援している。利用者の希望や得意を活かして、野菜の下準備・調理・おやつ作り・後片付け等に参加できるよう支援している。利用者個別の好みの食器を使い、職員も食事に同席する等、家庭的な食事の雰囲気大切にしている。ホテルからのデリバリーや、季節感のある和菓子の購入等も活用し、変化を楽しむ機会を設けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事に関しては献立の作成段階から栄養士による栄養のバランスチェックを行っているほか、季節による変化や個々に必要な水分量に合わせて、その必要接種量を考え記録に残し、その方々に必要な支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	お一人おひとりの力に応じた形で毎食後の口腔ケアを行っている。また、義歯の方々に對しても一緒に洗浄を行い、清潔を保っている。口腔ケアの行き届かない方であっても定期的に歯科受診や往診を取り入れ、正しくケアを行っている。		

グループホーム オリμπピア兵庫

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立に向けた排泄を促している。ご利用者個々の排せつパターンを把握しその方々にあった支援を行っている。また、一度オムツなどに変わった方々に対しても定着することがないように、自立に向けケアに組み込み、向上に努めている。	排泄の自立度に個人差が大きい現状があり、利用者個々の状況に応じた支援を行っている。iPadの「チェック表」で排泄状況・排泄パターンを把握し、排泄の自立の継続・トイレでの排泄に向けた支援に努めている。日々の共有や検討は「申し送りノート」や随時のカンファレンスで行い、毎月のユニットカンファレンスで全利用者について状況共有や課題検討を行い、現状に即した介助方法や排泄用品の使用につなげている。計画的に自立に向けた支援に取り組み、退院後にベッド上でのおむつ交換を要した利用者が、トイレでの排泄が可能になった事例もある。誘導時や見守り時のプライバシーへの配慮や、消臭など環境整備への配慮を周知している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	お一人おひとりの日々の排便状況を把握し、便秘状況の早期対応に努めている。お腹に良い食べ物や飲み物を取り入れた食の工夫、またその量にも気を配り働きかけている。運動の機会も作らせて頂き、医師、看護師の判断で下剤や、浣腸もおこないご本人の苦痛緩和を行っている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々これまでの生活スタイルに合わせた入浴を行って頂いている。お好きな方は毎日入浴される方もおり、時間に関係なくいつでも入れる様、対応している。また、入浴形態も、個々に対応しており車いすの方であっても機械浴をご使用頂け、安全に入浴を楽しんで頂いている。	入浴の日時は決めず、利用者個々のこれまでの生活スタイルを継続できるよう支援している。就寝前に入浴や毎日入浴したい意向にも対応している。iPadの「チェック表」で入浴状況を把握し、現在は全利用者が平均週2～3回入浴している。個浴の一般浴を基本とし、身体状況に応じて安全面に配慮しシャワー浴、施設内の機械浴を利用できる環境がある。利用者の希望で同性介助に対応し、入浴の拒否がある場合は無理強いせず、声掛けのタイミング、日時の変更、清拭対応等で対応している。好みのシャンプー・石鹸を使用し、ゆず湯等で季節感を採り入れる等、入浴がより楽しめるよう支援している。	

グループホーム オリンピア兵庫

自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一律で消灯や睡眠時間を設定する事無く、お一人おひとりの睡眠ペースで休んで頂いております。居室の照明や寝具等の環境にも配慮し、安心して休んで頂ける様配慮している。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に対する重要性を理解し、確実な服薬の援助ができるように、ご利用者個々の薬情報をまとめている。薬の変更や、新たな薬が処方される際は明確な期間を設定の上、効果や副作用等のデータを取り、担当医師に報告相談をし、ご本人に適切な形での服薬調整を行っている。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1日の生活でご利用者にとって退屈な1日にならない様、様々なお誘いを行っている。全体での催し物を始め、個々の趣味を生かした活動をお勧めしている。また、家事などでも役割を持って頂き、刺激のある生活に繋げている。		
49	(22) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	オリンピア兵庫では日常的な外出を多く行って頂いている。近隣の外出から、旅行まで幅広くご利用者の外出への支援をさせて頂いている。コロナ禍で外出がしづらくはなったが、ドライブや買い物、などご本人様の希望に対し個々に支援をしている。	通常は、日常的な外出・地域行事の参加・季節の外出行事・遠足・旅行等、外出機会を多く企画し外出支援をしている。コロナ禍のため外出機会は減っているが、時期を勘案し、感染対策を徹底しながら、近隣の公園への散歩・買い物・馴染みの理美容院や病院・初詣・季節の花鑑賞のドライブ等、できる範囲で外出支援を行っている。外出が困難な時期は、テラス・ベランダ・屋上で外気に触れて気分転換したり、リビングでユーチューブ動画を活用し音楽に合わせて体操する等、施設内で楽しみ、機能低下予防できるように努めている。	



グループホーム オリμπピア兵庫

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望に合わせ、ご家族との相談のもと所持の方法を決めている。実際現金を持たれてない方が多いが、支払い時に自身で支払って頂いたり、買い物時に適度なお金を持って頂くことでの安心感をもって買い物を楽しんで頂ける様支援させて頂いている。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お好きな時に電話をして頂く事はもちろん、携帯電話を持参し好きな時に連絡を取られたり、年賀状や手紙にて家族や知人とのやり取りを継続されている。2か月に一度は月刊誌を送付し、写真にてご本人の様子をお伝えしている。		
52	(23) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	オリμπピア兵庫の2ユニットそれぞれにユニットの特色を活かした環境作りを行っている。ご利用者の手作りのものを飾ったり、季節の花を置いている。明るさや、温度等にも注意を払い、ご利用者の家として居心地の良い環境作りを行っている。室内のみならず、ベランダで植物を育てたり、テラスを作っている。	共有空間はゆったりと広く開放感があり、木調で温かく落ち着いた雰囲気である。2つのユニットは廊下で繋がっており、利用者は自由に行き来して交流を楽しんでいる。温湿度管理、定時の換気と消毒を行い、衛生管理を行っている。テーブル席と大型テレビ前のソファ、畳スペース、やや離れた場所に一人用テーブルを設置し、利用者がその日の気分で思い思いに居心地よく過ごせる環境である。季節の花、ひな壇・クリスマスツリー等の行事の飾り、利用者職員共同制作の壁飾り、行事・イベントの写真等の掲示から、季節感や温かみを感じられる。利用者は併設の台所で食事の用意に参加し、家庭的な雰囲気がある。廊下にもソファやベンチを設置し、寛げる場所を用意している。テラス・ベランダ・屋上も、外気浴、季節の花々の植栽、すいか割りの等のイベント、歩行リハビリ等に活用している。	

グループホーム オリμπピア兵庫

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	数か所にソファやテーブルを設置し気分によって居場所を変えたりくつろいで頂ける様、複数箇所の居場所を提供している。また、食卓と場所を分けることで安心して過ごすことのできる居場所づくりに取り組んでいる。		
54	(24) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	オリμπピア兵庫ではご利用者に思い思いに居室作りをして頂いている。ご本人がこれまで使い慣れた家具、馴染みの品思い出の写真を持って来られている。家族からも情報を頂き、これまでの生活環境に近い形で、ご本人の落ちつける空間を作っていただけのような支援している。	居室には、ベッド・クローゼット・洗面台が設置されている。家族の協力を得て、テレビ・テーブル・椅子・冷蔵庫・趣味の物・手作り作品・家族の写真・観葉植物等、使い慣れた物・馴染みの物が持ち込まれ、その人らしさが感じられる。自宅での家具の配置に近づけたり、布団での就寝を継続する等、これまでの生活スタイルを継続し、落ち着いて生活できる環境づくりを支援している。状態の変化に応じて動線確保のため家具の配置を変更したり、可能な範囲で居室の掃除や衣替えを職員と一緒に行う等、安全に自立した生活が継続できるよう支援している。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人の「自立」のサポートの考えを基本に、環境作りを考えている。フロア内に来れる限りつかまれる場所を多くし安心感を持って頂ける様工夫をしている。皆様の状態の変化に応じた個々の居室の模様替え、更に自身での行動を促すような配置などを考えている。		